

図書館だより

鳥居松小学校 2017.7.7

図書館部発行 第2号

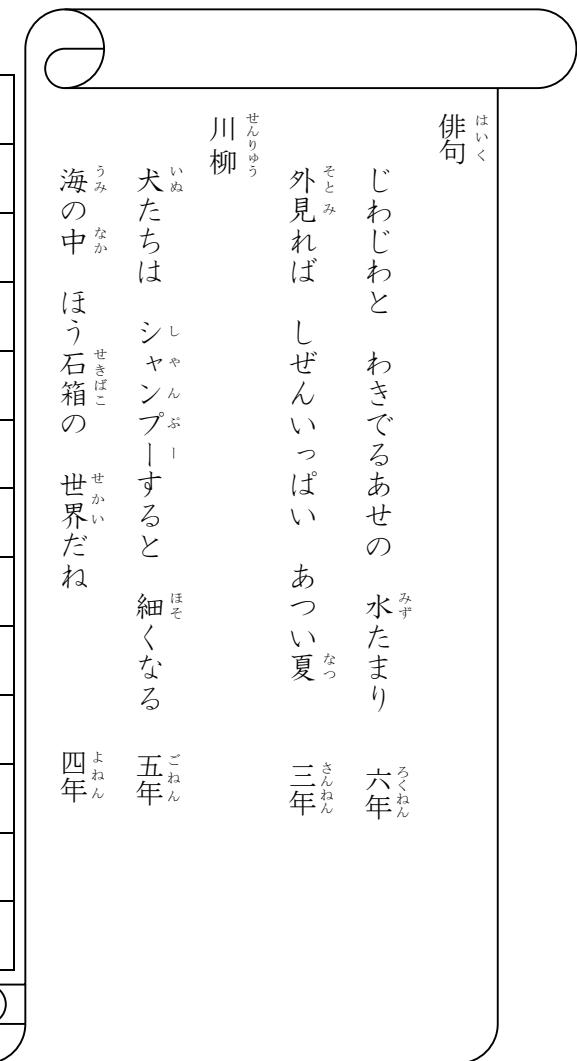
アシサイ読書週間が終わりました。みなさんは、何冊の本を借りて読みましたか。読書週間中、みなさんはたくさんの本を読んでいました。きっと、よい出会いがあったことだと思います。



☆俳句・川柳の応募ありがとうございました。

- 3年生～6年生の人が、この季節にちなんだ俳句や川柳をたくさん応募してくれました。
- 優秀作品は、図書館横の掲示板に掲示しています。

| クラス | 1学期(～6/30まで)に読んだ本の冊数 |
|-----|----------------------|
| 1-1 | 418冊 |
| 1-2 | 274冊 |
| 2-1 | 272冊 |
| 2-2 | 268冊 |
| 3-1 | 512冊 |
| 3-2 | 268冊 |
| 4-1 | 341冊 |
| 4-2 | 392冊 |
| 5-1 | 373冊 |
| 5-2 | 297冊 |
| 6-1 | 348冊 |
| 6-2 | 375冊 |



【課題図書の紹介】

<ついがくねん>

<ついがくねん>

<ついがくねん>



『ばあばは、だいじょうぶ』

ばあばは、いつもいってくれる。「つばさはだいじょうぶだよ」って。

そんなばあが、「わすれてしまう」びようきになって…

『すばこ』

すばこは、ひとが作った鳥の家です。そざいも、かたちも、大きさもいろいろ。じつはドイツの貴族の男性がはじめたって、知つていましたか？

『アランの歯はでっかいぞこわーいぞ』

おおきくてカミソリみたいなアランの歯。みんなをおどろかすために、まいにちのおでいれもかかせません。でも、こわいだけじゃ、ありません。たいせつで、とくべつなアランの歯のおはなし

<ついがくねん>

<中学年>

<中学年>

『なにがあってもずっとといっしょ』

オレはサスケだ。サチコさんのいえのにわにすんでいる。小学生はオレのことをすきな名まえでよぶ。イヌのことばがわからないらしい。「しっかりべんきょうしろよ！」サチコさんはイヌのことばがわかる。オレはサチコさんといっしょにいるときがいちばんしあわせだ。でも、きょうはサチコさんがかえってこない…。どうしてだ！？

『壁にむかってともだち宣言』

ナーミンはミヤンマーからの転校生だ。あいりはすぐ仲よくなるが、給食の時に事件が起きる。だがそれをきっかけに、クラスで難民のことを学び、国境を越えた友情が広がっていく。

『干したから…』

私たちのまわりには干した食べものがたくさん。でも、どうして干すのでしょうか？干することで、なにがわかるのでしょうか？干すことのふしぎとその目的を紹介します。

<中学年>

<中学年>

<高学年>

『くろねこのどん』

「ようい、どん」えみちゃんが、かけ声をかけるとぱっとあらわれて、にやーとこたえるねこ。いつの間にか「どん」という名前になりました。

『耳の聞こえないメジャーリーガーウィリアム・ホイ』

おかあさんからのやさしい手紙を読んで、ウィリアムはへんじをかかなくてはと思いました。へんじをかく？かく……って……。そうだ！かけばいいんだ！おかあさんにではなく、審判に！手紙ではなく、絵をです。ウィリアムはノートに絵をかきました。それは、ストライクとボールのジェスチャーをかいたものでした。

『ぼくたちのリアル』

あの夏、ぼくとリアルにはサジが必要だった。そして、それとおなじくらい、サジにもぼくたちが必要だったのかもしれないって、いまはそう思う。運命っていうのは、たぶんそういうことをいうんだ。

<高学年>

<高学年>

<高学年>

『転んでも、大丈夫』

パラリンピック選手とともに——どんな難題にも立ちむかう、義肢装具士の物語！

『黒のなかの白い犬』

子犬がつなぐ心の絆、戦争の記憶と希望の物語

『チキン！』

転校生の真中さんは、言いたいことをなんだってはつきりいう性格で、まわりの人とトラブルばかり。おかげで、それまで平穀だったぼくの毎日は、とんでもなくデンジャラスな日々に変わった……